

ろじ! マチ 通信

防災まちづくりで災害に備えよう!

防災まちづくりに触れよう!

身近な防災に目を向けてみよう

9月の防災月間とともに秋が始まりました。いつもに増して防災への関心が高まっているのではないのでしょうか。これから冬を迎えると火災も発生しやすくなります。

この機会に、身近なろじ・マチの防災を考えてみませんか。一人一人が防災意識を持つことが、防災まちづくりの第一歩になります。



六原学区「六原フェスタ」



翔鸞学区「翔鸞ふれあいまつり」

楽しく学ぶ防災まちづくり

身近なろじ・マチの防災について考えるきっかけとして、防災まちづくり活動に取り組んでいる学区では、地域のお祭り等のイベントで「防災まちづくりコーナー」を設けるなど、それぞれに工夫を凝らしながら普及啓発活動を行っています。防災まちづくりについて体験しながら楽しく学べるほか、地域の防災に関する相談もしていただけます。

各地区のイベントで防災まちづくりのPRが行われています!

8月に正親学区こどもまつり「児童ボーン」が、10月に仁和まつりが開催され、こどもから大人までが防災まちづくりを楽しく学びました。11月には大原学区、翔鸞学区、朱雀第二学区、紫野学区でも様々な取組が行われます。



「児童ボーン」の耐震体験コーナー



仁和まつりの防災まちづくりコーナー



スタンプラリーでのひにゃんこスタンプ

ろじ・マチの防災性を高めよう！



「防災まちづくり」の取組の中で、ろじ・マチの防災性を高めるための具体的な改善が進んでいます。

京都市の支援制度（4頁参照）を活用した取組はどんどん増えてきており、現在も各地で検討が進んでいます。今回はその一部をご紹介します！

ろじの対策①

袋路に扉を作って2方向避難を可能に！（桃園・嘉楽学区）



↑突き当たりが緊急避難扉。弁柄塗装の木製扉は、町並みに溶け込んでいます。

行き止まりの路地（袋路）は、防犯等の生活環境面で安心である一方、防災面では、災害時に入口が塞がってしまうと避難や救助ができなくなるおそれがあります。

京町家が建ち並ぶこの袋路では、平成26年に路地にお住まいの方が主体となり、細街路対策事業（4頁参照）による補助を受けて緊急避難扉が設置されました。扉の先は、公園へ繋がっています。

路地奥を常時開放する案も出ましたが、「袋路のよさ」も残すため、普段は閉めておき、緊急時のみ開けられる仕様にしました。扉は木製で弁柄が塗装され、京町家の町並みになじんでいます。



↑扉の向こうは公園です。

＼地域からの声／

“関係者や住民の意見のすり合わせに試行錯誤。最後は住民の想いを理解してもらえて、形にすることができました。

当時はここに住み始めたばかりでしたので、路地の代表として事業に取り組んだことで、他の住民との関係を築くよい機会になりました。”



路地の代表 寺島 彰さん

ろじの対策②

袋路の入口を耐震・防火改修！（大原学区）

京都の路地は、入口がトンネル状になっていることがよくあり、地震等でこの部分が崩れると、避難や救助に支障をきたすおそれがあります。

対策として、除却なども検討しましたが、京都らしい風情を残すため、地震や火災に強くする改修が施されました。地域のまちづくり活動をサポートする建築士の方が、設計を担当しました。



↑接合部を補強しました。
→トンネル路地の外観。



＼地域からの声／

“関係者の意見を聞きながら、町並みも考慮して設計しました。路地の対策を進めるには、路地単位の合意形成が必要です。専門家が多様な提案をしながら全体のバランスをとることで、そのサポートをしていくことが重要だと思います。”

建築士
能戸 謙介さん
（拙計画工房）



マチの対策②

古いブロック塀を作り替え！（仁和学区）

狭い路地に面して高く積まれたブロック塀。地震時には倒壊する危険性があります。この塀の奥には、静かな昔ながらの町並みが残る袋路があります。災害時の避難に不安があり、平成25年にいち早く緊急避難扉を設置。今年になり、ブロック塀を除却し、金属塀に改善されたことで、さらに安全が高まりました！



↑改善前のブロック塀。



↑路地奥の静かな町並み。



↑路地奥の緊急避難扉と梯子。



↑金属製の塀に改善された様子。

＼地域からの声／

“ここは袋路なので、入口のブロック塀が地震で崩れると逃げられなくなると不安でした。袋路の奥には緊急避難扉も設置しましたが、段差があるため、これでさらに安心して暮らせるようになりました。

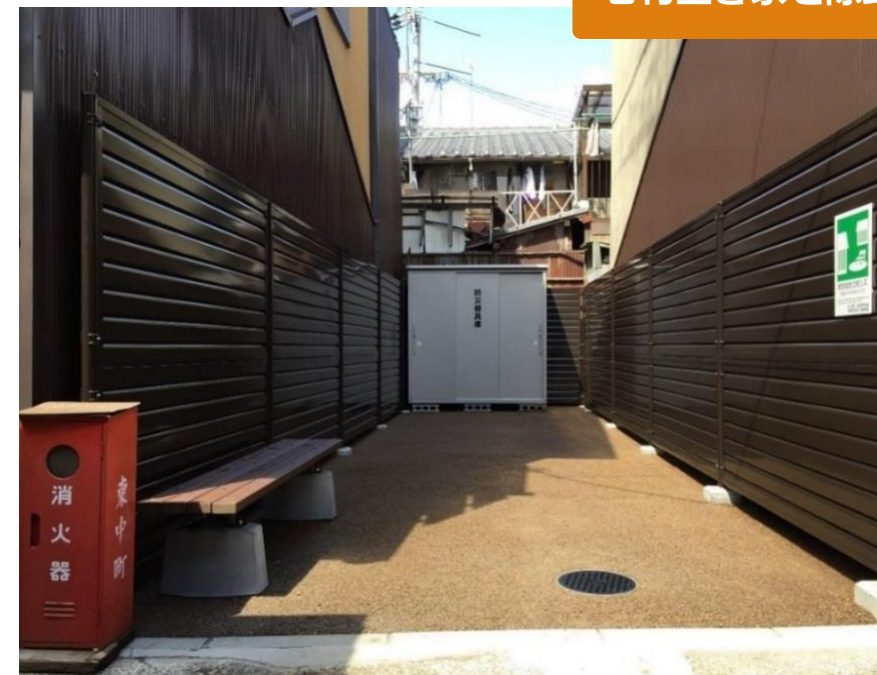
表れもそのまま残り、ご近所の方には路地が明るくなったと喜ばれています。”



路地にお住まいの
糸 昌光さん

マチの対策①

老朽空き家を除却し、防災ひろばに！（朱雀第二学区）



↑整備された「まちなかコモンズ」。普段はコミュニティ空間として利用できます。



↑除却する前の空き家の様子。



↑前面路地の様子。



↑この標識が目印です。

＼地域からの声／

“空き家のまま老朽化が進み、ご近所さんに対して肩身の狭い思いをしていました。建替えや売却がしづらいことがわかり、支援制度を活用することに。

ずっと気にかけていたのでスッキリしましたし、町内の方からも「遊びに来てくださいね！」と声をかけていただけの関係となり、とても嬉しかったです。”

空き家の所有者
桐野 みち子さん





ふくろうじいの

マチづくり マメちしき

Vol. 2 ろじ・マチ・いえの安全を高める支援制度

京都市では、密集市街地や細街路の安全性を高めるための、様々な支援制度を設けています。

■ろじの対策 ～細街路対策事業～

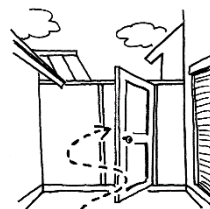
袋路の避難安全性を向上するため、二方向避難のための緊急避難扉設置や、袋路の入口部の耐震・防火改修工事の費用を補助します。

【補助額】

緊急避難扉の設置：上限 **30 万円**（全額補助）

袋路の入口部の耐震・防火改修：上限 **250 万円**（全額補助）

袋路の入口部の工作物の撤去等：上限 **50 万円**（全額補助） 他



■マチの対策 ～防災まちづくり推進事業～

まちなかで災害時に危険となる老朽建築物等を除却・改善するなど、まちをより安全にするための工事費用を補助します。

【補助額】

老朽木造建築物の除却：上限 **60 万円**（補助率 2/3）

危険ブロック塀の除却：**4、900 円/m**、新設：**10、400 円/m**

防災ひろばの整備：上限 **200 万円**（全額補助） 他



■いえの対策

～木造住宅耐震改修助成事業～ ほか

建物を耐震化することは、まちの防災にも有効です。

【補助額】

木造住宅の耐震改修：上限 **90 万円**（補助率 1/2） 他

【耐震に関するお問合せ先】

京（みやこ）安心すまいセンター TEL 075-744-1631



※各制度には要件があります。詳しくはお問合せください。

路地 わがマチ わが路地

Vol. 2 溝前町守る会（上京

千本今出川の交差点から北西へ入ると、路地に京町家が建ち並び、時折西陣織の機織の音が聴こえてきます。ここは京都らしさ溢れる溝前町。

その一つの路地で、お地蔵さんの隣で景観に馴染む、防災倉庫を見つけました。この中には、救出用工具（ハンマー、ジャッキ等）をはじめ、町内に4つある井戸に使用するポンプや発電機等、計 50 点以上の防災器具が収納されています。

この倉庫を設置したのは、町内独自の防災組織「溝前町守る会」。平成 19 年に有志が集まり発足しました。「災害時の助け合い」に重点を置き、定期的な器具のメンテナンスや高齢者の救援対策、防災訓練等に取り組んでいます。



溝前町守る会会長
北尾 隆幸さん

阪神・淡路大震災の現地での復旧作業経験をきっかけに、自分たちの町内に災害が発生した場合に必要なものを話し合いながら、活動しています。

高齢者の対策も急務で、緊急時に必要な情報をまとめた名簿を作成・共有しています。現在、高齢者の方の集いの場として、月 1 回茶飲み会を千本釈迦堂で開催しています。



↑ 防災倉庫と路地の様子。倉庫は隣のお地蔵さんを意識したデザイン。

← 倉庫に収納された防災器具の数々。

<お問合せ・ご相談はこちらまで>

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室（密集市街地・細街路対策担当）

TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■京都市印刷物登録
第 274469 号
平成 27 年 11 月発行



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

